

研究分野：保健

調査研究名	国保データベースを活用した地域包括ケアシステム構築に向けた医療・介護需要量予測モデルの開発
研究者名（所属） ※印：研究代表者	○西巧、高尾佳子、市原祥子、枇杷美紀、田中義人、香月進、吉富秀亮、山田直司（保健医療介護総務課）、西川隆一郎（医療指導課）、鳥巣由美子（医療保険課）、真子美和（高齢者地域包括ケア推進課）、池田純一（介護保険課）、前田俊樹（福岡大学医学部衛生・公衆衛生学教室）、今任拓也（国立がん研究センター社会と健康研究センター）、馬場園明（九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座）
本庁関係部・課	保健医療介護総務課、医療指導課、医療保険課、高齢者地域包括ケア推進課、介護保険課
調査研究期間	平成30年度～令和2年度（3年間）
調査研究種目	1. ■行政研究 <input type="checkbox"/> 課題研究 <input type="checkbox"/> 共同研究（共同機関名：） <input type="checkbox"/> 受託研究（委託機関名：） 2. ■基礎研究 <input type="checkbox"/> 応用研究 <input type="checkbox"/> 開発研究 3. <input type="checkbox"/> 重点研究 <input type="checkbox"/> 推奨研究 <input type="checkbox"/> ISO推進研究
福岡県総合計画	大項目：高齢者や障がいのある人が安心してはつらつと生活できること 中項目：高齢者が安心して生活する社会を作る 小項目：適切な介護サービスの確保
福岡県環境総合ビジョン（第四次福岡県環境総合基本計画）※環境関係のみ	柱： テーマ：
キーワード	①地域包括ケアシステム ②医療計画 ③介護保険事業支援計画 ④国保データベース
研究の概要	
1) 調査研究の目的及び必要性	
福岡県では、効率的かつ質の高い医療提供体制を整備するために、「福岡県保健医療計画」及び「福岡県高齢者保健福祉計画」を策定し、3年毎の見直しを行うこととなった。両計画の見直しには、「療養病床」から生じる新たな医療・介護のサービス需要量について、整合性のある推計を行う必要がある。国が推奨する推計方法としては、患者調査や病床機能報告に加え、国保データベース(KDB)のデータを用いたものが示されているが、集計データの精緻さの観点では、KDBデータが最も優れているとしている。しかしながら、患者単位・診療毎のデータであり、データ量が膨大であること等から、作業負担が大きいという課題があった。そこで、本研究では、KDB等レセプトデータを活用し、実証的な医療・介護サービス需要量を推計することを目的とした。	
2) 調査研究の概要	
KDBの医療・介護情報を一体的に分析し、医療・介護需要量の推計と在宅医療・在宅看取りの現状を把握することで、福岡県の実態に応じた次期保健医療計画・高齢者保健福祉計画策定に参考となる情報を提供する。	
3) 調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください。）	
(平成30年度) 平成25-29年度のKDBデータを受領し、医療区分1の療養病棟退院患者を追跡し、医療・介護サービス受給状況について集計した。	
(令和元年度) 行政ニーズに基づき、本県の在宅医療の現状及び医療と介護の連携の実態を把握するために、研究期間を延長した。平成30年度のKDBデータに加え、平成25年度以降のKDB格納前のレセプト情報(レセ電コード情報)を受領し、KDBに含まれていない情報を追加した。死亡票との連結解析に先立ち、死亡月の療養場所と死亡前1年間の療養場所を把握し、人口動態調査死亡票の集計結果との比較・検証を行った。	
(令和2年度) 人口動態調査死亡票の情報を追加し、死因・死亡場所別の死亡前1年間の療養場所の遷移と医療・介護資源利用状況についての分析を行った。	
4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献	
地域の実情に応じたより正確な医療・介護需要量の推計を行ったことで、効率的な医療・介護提供体制の構築は医療・介護資源の効率的な使用に加え、高齢者の生活の質向上のために貢献できたと考える。	
5) 調査研究結果の独創性、新規性	
県庁関係課からの種々の行政ニーズへの対応に加え、学術的意義を高めるために、「国保-後期」間の被保険者資格の異動を超えて追跡可能な保健医療介護縦断データベース、死亡票の連結を行った点で高い新規性を有する。	

6) 成果の活用状況（技術移転・活用の可能性）

福岡県の実態に応じた次期医療計画・介護保険事業支援計画等の策定時に活用できる情報を提供した。技術面に関しては、本研究で構築したデータベースを活用し、共同研究機関と連携して研究を継続し、成果の発表を行うことで、様々な保健医療介護情報の利活用を今後も推進していく。

7) 当該調査研究課題に関する発表等

① 行政に対する情報提供

平成30年度は療養病床退院患者の医療・介護需要量に係る推計結果について報告し、令和元年度は、死亡月の療養場所と死亡前一年間の療養場所について報告した。

② 県民への情報提供（保環研ニュース・年報・新聞報道等）

特になし

③ 学会誌掲載、学会発表

【原著論文(1stのみ、全て査読付)】

Nishi T, Maeda T, Imatoh T, Babazono A. Comparison of regional with general anesthesia on mortality and perioperative length of stay in older patients after hip fracture surgery. *Int J Qual Health Care*. 2019 Nov 30;31(9):669-675. doi: 10.1093/intqhc/mzy233.

Nishi T, Babazono A, Maeda T. Association between income levels and irregular physician visits after a health checkup, and its consequent effect on glycemic control among employees: A retrospective propensity score-matched cohort study. *J Diabetes Investig*. 2019 Sep;10(5):1372-1381. doi: 10.1111/jdi.13025.

Nishi T, Maeda T, Katsuki S, Babazono A. Impact of the 2014 coinsurance rate revision for the elderly on healthcare resource utilization in Japan. *Health Economics Review* 11: 24.

【学会発表】

西巧、前田 俊樹、馬場園 明:専門職によるがん疼痛緩和指導と終末期の積極的治療との関連. 第56回日本医療・病院管理学会学術総会

西巧:居住地周辺の社会的及び地理的環境が糖尿病発症に与える影響の評価:3年間の縦断研究. 日本経済学会 2018年度秋季大会

西巧、馬場園明、前田俊樹、今任拓也: *Helicobacter pylori*一次除菌療法におけるカリウム競合型アシッドプロッカー:ボノプラザンの費用効果分析. 医療経済学会 第11回若手研究者育成のためのセミナー

西巧:高齢者における自己負担率増加が医療資源利用に与える影響:レセプトデータを用いたInterrupted time series analysisの試み. 日本経済学会 2019年度春季大会

西巧、高尾佳子、市原祥子、吉田まり子、田中義人、香月進: 福岡県における保健医療介護縦断データベース構築の試みについて.第33回公衆衛生情報研究協議会研究会

西巧、前田 俊樹、馬場園 明: 新規治療開始した高齢糖尿病患者におけるケアの継続性と入院リスク・医療費の関連. 第57回日本医療・病院管理学会学術総会

西巧、香月進、前田俊樹、馬場園明: 国保データベースを活用した、市区町村別生活習慣病有病率の推定と可視化の試み. 第78回日本公衆衛生学会総会

西巧、前田俊樹、原田勝孝、香月進: 脳梗塞入院患者の再入院予測モデル構築の試み. 第58回日本医療・病院管理学会学術総会

西巧、前田俊樹、香月進: 国保データベースを活用した、死亡月の療養場所と死亡前一年間の療養場所把握の試み. 第79回日本公衆衛生学会学術総会

④ その他（学会賞の受賞、特許出願）

特になし